

仏説観無量壽經

時に耆提希幽閉せられおわつて愁憂憔悴して遙かに耆闍崛山に向かつて佛の為に礼を作してこの言を作さく如来世尊在昔の時は恒に阿難を遣わして来てして我れを慰問したまひき我れ今愁憂す世尊は威重うして見たてまつることを得るに由なし願わくは目連尊者阿難ををして我が与に相見せしめたまえこの遙かに佛に向かつて礼したてまつるいまだ頭を挙げざる頃にその時に世尊者闍崛山に在して耆提希の心の所念を知ろしめしてすなわち大目犍連および阿難に勅して空より来らしめ佛は耆闍崛山より没して王宮において出でたまふ時に耆提希礼しおわつて頭を挙ぐるに世尊釈迦牟尼佛の身は紫金色にして百宝の蓮華に坐し

為

令和 年 月 日

淨寫